

コープで
広がる、
つながる

未来へつなごう



社会福祉法人恩賜財団済生会へのお米寄贈式では、コープみらい 新井理事長(写真左)から恩賜財団済生会 炭谷理事長(同右)にお米をお渡ししました。寄贈したお米は、医療機関が運営する子ども食堂に無償で提供されています



社会福祉法人八街市社会福祉協議会に寄贈したお米は「フードパントリーやちまた」で子育て家庭などにお渡ししました。ブロック委員(地域での活動のコーディネーター役を担う組合員)もお米の配布に参加

食べることに困っている方々と、日本の米づくりを支えます

1年間で200トン(4万袋^{5kg米で})のお米を寄贈します

コープみらいは2022年度に続き、2023年度も1年間を通して200トンのお米を地域のフードバンクなどに寄贈します。日本の米づくり応援にもつながる取り組みです。

困っている方に
お米を届けます

コロナ禍の長期化や相次ぐ食品などの値上げで、困難を強いられる方が増えています。こうした方々を支援するため、コープみらいでは2023年度も1年間を通して合計200トンのお米を、地域のフードバンクや社会福祉協議会など生活困窮者への食料支援を行っている団体へ寄贈します。

こうした支援ができるのも、組合員の皆さんに宅配・お店をたくさん利用していただいたからこそ。昨年度も計画を超える剰余金(利益)を確保できたことから、その剰余を社会に還元します。

寄贈するお米は、コープの産直産地のもの。近年お米の利用が減り続けており、生産者は苦境にあえいでいます。「お米」を寄贈することで、生産者の皆さんへの応援にもつながります。

昨年度同様、
支援を続けます

このお米の寄贈は、昨年度に続く取り組みです。コープみらいでは2022年3月から1年間、年間25回に分けて、合計約205トン(※5kg米で4万710袋)のお米を寄贈しました。2022年度の寄贈先は千葉県内13団体、埼玉県内14団体、東京都内25団体の合計52団体。寄贈したお米は、ひとり親家庭・子育て家庭へのフードパントリー(食品の配布)や、子ども食堂・炊き出しでの利用など、生活にお困りの方への支援に活用されています。地域に根ざした団体と一緒に取り組みを行うことで、地域でのつながりづくりにもなります。

コープみらいでは、「未来へつなごう」をスローガンに、生活に困りの方への支援を今後も続けるとともに、日本の米づくりを応援します。

※一部増量規格あり

寄贈先の1つ

NPO法人みなと子ども食堂 理事長 福崎聖子さんより

「もともと子ども食堂の運営・学習支援を行っていましたが、コロナ禍で難しくなり、今は約200世帯の方々に月1回、2~3kgのお米をお配りしています。食べるものにも困る家庭が激増しており、支援は本当にありがたいです。お米は何よりも基本の食べ物。子どもたち・ご家庭の方たちからも『お米は本当に助かります』というお手紙や声をいただいています。子どもたちの未来は食ではぐくまれます。今後ともご支援をお願いいたします。」



みなと子ども食堂のフードパントリーの様子